

【様式】

平成31年度 学校マネジメントシート

学校名 ( 名張高校定時制 )

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		「自立」「協調」「創造」を校訓とし、地域に信頼され、社会に貢献する人材を輩出できる学校。
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 挨拶や身だしなみなど基本的な生活習慣が身についている生徒。</li> <li>○ 社会で必要とされる基礎的な学力があり、自ら考え判断し、主体的に行動できる生徒。</li> <li>○ 豊かな心を持ち、人権と生命尊重の意識、規範意識や社会的マナーを備えた生徒。</li> </ul>
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 主体的・対話的で深い学びを意識した授業を通して、生徒の人間性を育むとともに、情報共有と意思疎通を図りながら、一人ひとりの生徒に寄り添い、粘り強く支援・指導を続けられる教職員集団。</li> <li>○ 研修や授業改善、業務の効率化などに前向きに取り組み、あらゆる場面において常に改善の意識をもつ教職員集団。</li> </ul>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		生徒: 学校生活の充実(授業内容・学校行事・施設設備) 進路保障(情報提供) 保護者: 基礎学力の定着、進路保障・卒業、社会規範の向上 進路先: 基礎学力、一般教養、協調性、誠実さ、辛抱強さ	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	保護者: 進路保障・卒業、社会規範・基礎学力の定着 地域: 地域に貢献できる人材の育成 公的機関: 多様な生徒の積極的な受入		保護者: 基本的な生活習慣の確立、生徒への愛情と関心、相互連絡と協力 地域: 地域の活力の利用 公的機関: 情報の共有、教育的支援・連携
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 定時制の教育環境は、教員による指導が行き届いており、生徒が誰一人疎外感を感じていないように思う。</li> <li>○ 家庭環境が多様で、保護者との連携が難しいが、今後は携帯メールなどのツールを積極的に使うことも考える必要があるのではないかと。</li> <li>○ コミュニケーションに課題がある生徒もいるので、きっかけ作りとして生徒の関心度が高いオンラインゲーム等を話題にしてはどうか。</li> <li>○ 集団で培うものを大切にした行事計画を進めてはどうか。</li> </ul>	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業の理解度はおおむね良好であるが、目的意識や学習意欲、学力において大きな差があることから、個々の生徒の能力、興味・関心に応じた教育課程の編成と学習環境づくりに取り組む必要がある。</li> <li>○ 近年は落ち着いた雰囲気の中で授業を受けることができていることから、今後は、生徒が主体的・発展的に考える力の育成が必要と考えられる。</li> <li>○ 人権教育に関して、中学までの学習機会や個人の意識に差があることから、この状況を把握し、人権学習に反映させる必要がある。</li> </ul>	
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 挨拶の徹底を図り、基本的な生活習慣の確立を目指し、教職員と生徒及び生徒間の望ましい人間関係をつくり人権意識の向上を目指すにあたり、教職員の協働体制をより一層高める必要がある。</li> <li>○ 各教職員のそれぞれの取り組みや生徒情報が、的確に伝わるような情報共有の仕組みを作っていく必要がある。特に進路指導主事が、毎年変わる組織編成のため、生徒の進路希望状況等を職員全体で共通理解し、組織的に指導していく必要がある。</li> <li>○ 生徒一人ひとりが集団の中でのマナーや人権意識を身に付けるとともに、学校内で自分が安心できる居場所を確保できるよう、地域や家庭、関係機関との連携を強化する必要がある。</li> <li>○ 地域や家庭、関係機関との連携を密にし、学校から地域への情報発信を進める必要がある。</li> </ul>	

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 主体的・対話的で深い学びを意識した授業作りにより基礎学力の定着を目指し、継続的な授業改善に取り組み、丁寧でわかりやすい授業を工夫する。</li> <li>○ 豊かな心の育成を目指し、人権と生命尊重の意識・規範意識の向上、社会的マナーの定着を図る。</li> <li>○ 卒業後の進路をしっかりと考えるために、キャリア教育を活かした進路指導に努める。</li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 信頼される学校づくりを目指し、家庭や地域、関係機関等との連携をより一層深めるために、情報発信を進めていく。</li> <li>○ 大学、専門学校、自動車学校など地域機関等を利用した出前授業を活用し、社会で必要とされる幅広い知識を生徒に発信できる体制を整える。</li> <li>○ 教職員自身の人権意識や生命尊重への意識をさらに高めるため、教職員における校内外での研修機会を拡大・継続して行く。</li> <li>○ 総勤務時間縮減に関する取組が適切であることから、教職員が働きがいのある職場環境の充実をめざす。</li> </ul>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
主体的に学ぶ力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ T T や授業前の個別指導を実施して、丁寧でわかりやすい授業を行い自信とやる気を育てる。</li> <li>【活動指標】 アンケートの実施</li> <li>【成果指標】 各授業において、生徒の理解度 80%以上、成長意識度 70%以上</li> <li>○ 不注意による遅刻早退を減らし授業出席率の向上を図る。</li> <li>【成果指標】 各授業において、年間出席率 85%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 授業理解度は 79.2%。成長意識度は 60%程度。出席率は約 80%。各学年に長期欠席者が数名いる。不注意による業間遅刻が年間で 353 回あった。</li> <li>● 人権課題に対する意アンケートを 2 回実施。人権 LHR は 3 回実施。</li> <li>● 人権学習司会進行、振り返りの壁新聞の作成掲示を生徒会が担当・縦割りのグループ活動、全教員からの人権メッセージなど実施。</li> <li>● 歓送迎会、文化祭、ボウリング大会など 5 回の生徒会行事を実施。事前に生徒会役員の企画会議を持った。</li> <li>● 各種講座の実施。新規に挨拶運動(4/5~)や、好ましい言葉の使い方についての講話、敬意や礼節について考える講話を実施した。11月のいじめ防止の取組として、ネットによる人権侵害について生徒メッセージを掲示した。</li> </ul>	
豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自他の人権の尊重、命の大切さを実感する学習に積極的に取り組む。</li> <li>【活動指標】 人権アンケートの実施、命を大切にする講演会の実施、グループ別討議の実施</li> <li>○ 生徒会行事等に主体的・積極的に参加させる。</li> <li>【活動指標】 生徒会行事の実施回数、企画会議回数。花いっぱい活動や畑で作物栽培活動。</li> <li>【成果指標】 学校生活アンケートの満足度 60%以上</li> </ul>		
安全安心な学校環境作り	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒一人ひとりの思いを受け止め、生徒間の仲間意識を強くするいじめのない学校作り。</li> <li>【活動指標】 挨拶運動の取り組み 携帯マナー教室、薬物乱用防止教室、交通安全教室など各種講座の実施 いじめ防止に向けての取組</li> </ul>		

<p>キャリア教育の充実と進路保証</p>	<p>○職場定着サポーターや福祉関係機関などの外部機関との連携を強め、生徒の就業に対する意欲向上を図る。</p> <p>○生徒のアルバイトも含め就労支援を強化するため、関係機関との連携体制を確立する。</p> <p>【活動指標】進路ガイダンスの実施、連携機関との協議の充実</p>	<p>●4年生は希望通りの進路を実現できた。進路ガイダンスは2回実施。</p>	
-----------------------	--	---	--

**改善課題**

○授業が理解できることが有能感に結びつき成長への意識を高めるところまでいかなかった。また、今後、不注意による遅刻に対しては、授業の大切さを伝えて今後減らす取り組みをしていく必要がある。

○生徒会行事は企画から生徒会役員が関わり準備をする機会も設けたが、十分な時間設定ができなかった。事前に行事の通しを持たせるために年間行事についても生徒の意見の集約や時間の確保は検討課題である。

○年度当初に人権アンケートを実施し、生徒の人権に対する意識・理解を把握したが、今年度の学習計画には十分活かすことができなかった。次年度の計画に反映させたい。今年度も全学年合同で人権学習を実施した。縦割りのグループ学習の感想では、他学年の意見を知れて良かったという感想もあり、人権学習での縦割りグループ討議を定着させていきたい。

○生徒指導において、全生徒対象の一斉指導的な取り組みには限界が感じられる。生徒に対して個別的で有効な指導が必要となってきた。また、人間関係がうまく結べない生徒も数名いるので「好ましいコミュニケーション講座」のような取り組みも必要になってきている。

○進路指導においては、1～3年生でアルバイト等している者が3分の2いるが、まだできない生徒もいるので就労支援を強化していく必要を感じる。

**(2) 学校運営等**

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にしま

す。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にしま

す。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>信頼される学校作り</p>	<p>○授業公開の実施により定時制教育の周知を進める。</p> <p>【活動指標】平常授業日における学校見学者の受け入れ</p> <p>【成果指標】昨年度より授業公開日数の増加</p> <p>○生徒一人ひとりの自己実現を支援するための共通理解。</p> <p>【活動指標】生徒面談を学期に2回実施</p> <p>○家庭、地域、職場との連携をより一層深めるための情報発信に取り組む。</p> <p>【活動指標】毎月の出席状況を家庭に報告し、必要に応じて家庭訪問を行う。</p> <p>定時制ホームページの随時更新、報道機関等への情報提供、地元中学校への情報発信</p> <p>【成果指標】学校の様子がわかると回答する保護者の</p>	<p>○学校行事や講演会を保護者に案内し、学校や生徒の様子を見てもらう機会を増やした。</p> <p>○学習や学校生活に対する思いを聞く面談を定期的に行った。また、教育相談を担当、養護教諭が必要に応じて行い、継続的な生徒支援を行った。保護者アンケートの結果、概ね3分の2の保護者が、学校の様子をよくわかっていた。</p>	

<p>風通しの良い 明るい職場作り</p>	<p>割合 60%</p> <p>○学校環境の安全確認 【活動指標】教職員による安全点検を学期に1回実施。</p> <p>○教職員間の報連相の徹底。生徒情報などの共通認識の確認。学校環境の改善に関する活発なディスカッション。</p>	<p>○定時制ブログの更新は十分にでき、オンタイムな学校の情報を広く伝えられた。一方、ホームページの更新は十分ではなかった。地元中学校へは学期に2回以上訪れ、信頼関係を築けた。今年度は、適応指導教室も訪問し、生徒情報交換を積極的に行った。</p> <p>○校外クリーン活動を年2回実施。教員による学校安全点検は年間3回実施。</p> <p>○毎月の職員会議時に丁寧な生徒情報交換の時間をとる他、随時、生徒情報を共有している。</p>	
---------------------------	--	--	--

改善課題

○ひとり親家庭や遅くまで働いている家庭が多く、授業参観に来校する保護者が少ない。保護者が学校を訪れやすい工夫が必要である。

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<p>○愛情の感じられる学習環境を作っているため、今後も継続してほしい。</p> <p>○人間関係を作りにくい生徒や外国籍生徒もおり、半分以上の生徒が不登校を経験している。小中学校からの学習の継続性も薄い。生徒たちが自立できるような教育が必要である。</p>
----------------------------	---

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<p>○生徒の基礎学力の定着のためにICTの活用、独自教材の開発など授業力の向上が急務である。また、今年度は、壁新聞や文集作りなど様々な場面で生徒からの発信を促してきたので、今後も続けていきたい。</p> <p>○来年度は、生徒が授業を大事にする取り組みを強化したい。</p>
<p>学校運営についての改善策</p>	<p>○保護者との連携が弱いと感じている。よりていねいな情報の伝達と保護者のニーズの吸い上げが必要である。各分掌からの連絡方法などを見直していきたい。</p>